

研究資料
------

## 「阿波おどりと地域社会との関わり」に関するアンケート調査報告<sup>1)</sup>

鷺 見 英 司  
川 瀬 晃 弘  
渡 邊 隼

### 概 要

本稿は、徳島市民の阿波おどりと関わりが人と人とのつながりや日常生活などに与える影響を調査することを目的として、2022年11月21日から12月22日にかけて、15歳から74歳までの徳島市民を対象として実施したアンケート調査の結果をまとめたものである。調査票の配布・回収は郵送で行い、配布数5,000票に対して回収数は1,100票であり、回収率は22.0%であった。主な結果は、以下の通りである。第1に、2022年において踊り手や連への協力、阿波おどりの運営のサポートで実際に関わりを持っている市民は5%程度であり、過去の関わりや観覧という広い意味で捉えれば市民の80%がなんらかの形で阿波おどりと関わりを持った経験があることが確認された。第2に、現在と同様に、過去においても、地域や町内会の活動やボランティア活動といった自発的な社会参加・活動を通じて阿波おどりと関わりを持つ市民は多くないことが明らかになった。第3に、市民の家族や学校・職場の人とのつながりは強いが、近所との付き合いは密ではないこと、またコロナ禍でこれらのソーシャル・キャピタル（社会関係資本）やQOLは顕著な低下が確認された。

### I. はじめに

本稿は、徳島市民の阿波おどりと関わりが、人と人とのつながりや日常生活などに与える影響を調査し、徳島の伝統文化である阿波おどりの意義を学術的に明らかにすることを目的として、徳島市と日本大学経済学部産業経営研究所が共同で実施した「阿波おどりと地域社会との関わり」に関するアンケート調査（以下、本調査）の結果をまとめたものである。本調査票は、現在と過去の阿波おどりと関わり、地域社会との関わりとソーシャル・キャピタル（社会関係資本）、個人属性に関する設問で構成されている。

本調査の概要についてまとめると、まず、調査は表1の通り、2022年11月21日から12月22日にかけて、15歳から74歳までの徳島市民を対象として実施した。徳島市住民基本台帳・世帯数によれば、

<sup>1)</sup> 本調査の実施にあたり、徳島市民の皆様、徳島市にぎわい交流課には多大なるご支援とご協力をいただいた。ここに記して心より感謝申し上げます。本調査は、日本大学経済学部産業経営研究所の助成（令和4年度 研究プロジェクト）を受けている。

表1. アンケート調査の概要

項 目	内 容
調査対象	15歳から74歳までの徳島市民
実施時期	2022年11月21日～12月22日
抽出方法	住民基本台帳を用いたランダムサンプリング (年齢階級・居住地区を反映)
配布回収	郵送法
配布部数	5,000票
回収部数	1,100票
回収率	22.0%

本調査で対象とした人口は181,461人で、全人口の72.6%である<sup>2)</sup>。つぎに、サンプリングは、2022年7月1日時点の住民基本台帳から、層化抽出法に基づき、年齢階級別12区分と徳島市内23地区別の人口構成を反映して、5,000サンプルを抽出した。調査票の配布・回収は郵送で行い、配布数5,000票に対して、回収数は1,100票で、回収率は22.0%であった。

本稿の構成は以下の通りである。第Ⅱ節では本調査で得られたサンプルの特徴についてまとめる。第Ⅲ節では徳島市民の阿波おどりととの関わり、地域社会との関わりやソーシャル・キャピタルについての集計結果を示す。第Ⅳ節では主な調査結果をまとめている。なお、付録には調査票を掲載する。

## Ⅱ. サンプルの特徴

表2には、年齢階級別の配布数と回収数及び回収率、回収されたサンプルの年齢階級別分布が示されている。表2は回収数総数1,100票から年齢階級不明10票を除いた1,090票で算出されたものである。まず、左側の「配布・回収」より、年齢階級別の回収率を見ると、60歳代と70歳代の回収率が30%を超えた一方で、20歳代が10%台、10歳代が10%未満である。つぎに、右側の「分布」より、回収されたサンプルの年齢階級別分布（回収）を実際の徳島市の年齢階級人口の分布（実績）と比較すると、回収率が低かった10歳代と20歳代でそれぞれ3.1ポイントと3.5ポイント低く、他方、40歳代で3.1ポイント高い。このように、若年層の回収率の低下の影響があるものの、総じて、サンプルは実際の年齢構成の実態を反映したものとなっている。

表3には、地区別の配布数と回収数及び回収率、回収されたサンプルの地区別分布が示されている。

表3は回収数総数1,100票から地区不明14票を除いた1,086票で算出されたものである。まず、左側の「配布・回収」より、地区別の回収率を見ると、最低の不動地区の5.6%から最高の上八万地区の75.0%までばらつきが大きい、11地区が20%台前半である。つぎに、右側の「分布」より、サンプルの地区別分布（回収）を見ると、実際の徳島市の地区別人口分布（実績）と比較して、（回収率が最も低かった）不動地区で2.5ポイント、ついで、沖洲地区で1.1ポイント小さい。他方、（回収率が最も高かった）上八万地区で2.1ポイント、ついで、国府地区で1.4ポイント、渭北地区と昭和地区で1.1ポ

<sup>2)</sup> 2022年7月1日時点の徳島市の世帯数は122,085世帯であり、人口は249,865人、うち男性118,781人、女性131,084人である。人口構成は、0-14歳の年少人口が30,177人で12.1%、15-64歳の生産年齢人口が145,195人で58.1%、65歳以上の高齢人口が74,524人で29.8%である。

表2. 年齢階級別の回収率，サンプルの分布

	配布・回収			分布		
	配布数	回収数	回収率	実績	回収	差
10歳代	349	32	9.2%	6.0%	2.9%	-3.1
20歳代	832	99	11.9%	12.6%	9.1%	-3.5
30歳代	903	184	20.4%	15.1%	16.9%	1.8
40歳代	1,050	240	22.9%	19.0%	22.0%	3.1
50歳代	810	201	24.8%	18.8%	18.4%	-0.3
60歳代	649	201	31.0%	17.5%	18.4%	1.0
70歳代	407	133	32.7%	11.1%	12.2%	1.1
計	5,000	1,090	21.8%	100.0%	100.0%	

注1：回数総数1,100票から年齢不明10票を除いた1,090票を対象に集計。

注2：10歳代は15-19歳，70歳代は70-74歳である。

注3：右段の「分布」の「実績」は徳島市の住民基本台帳人口に対する年齢階級別人口の割合，「回収」は回収数1,090票に対する年齢階級別回収数の割合。「差」は後者と前者との差。

表3. 地区別の回収率，サンプルの分布

	配布・回収			分布		
	配布数	回収数	回収率	実績	回収	差
内町地区	104	23	22.1%	2.1%	2.1%	0.0
新町地区	37	4	10.8%	0.7%	0.4%	-0.4
西富田地区	33	8	24.2%	0.7%	0.7%	0.0
東富田地区	122	17	13.9%	2.5%	1.6%	-0.9
昭和地区	200	55	27.5%	4.0%	5.1%	1.1
渭東地区	289	71	24.6%	5.8%	6.5%	0.8
渭北地区	301	77	25.6%	6.0%	7.1%	1.1
佐古地区	211	50	23.7%	4.3%	4.6%	0.3
沖洲地区	357	66	18.5%	7.1%	6.1%	-1.1
津田地区	281	58	20.6%	5.7%	5.3%	-0.3
加茂名地区	500	104	20.8%	9.9%	9.6%	-0.3
加茂地区	425	94	22.1%	8.3%	8.7%	0.4
八万地区	548	121	22.1%	10.9%	11.1%	0.2
勝占地区	343	74	21.6%	6.8%	6.8%	0.0
多家良地区	124	26	21.0%	2.5%	2.4%	-0.1
不動地区	161	9	5.6%	3.3%	0.8%	-2.5
入田地区	28	8	28.6%	0.6%	0.7%	0.1
上八万地区	44	33	75.0%	1.0%	3.0%	2.1
川内地区	338	68	20.1%	6.7%	6.3%	-0.4
応神地区	106	19	17.9%	2.1%	1.7%	-0.4
国府地区	254	70	27.6%	5.1%	6.4%	1.4
南井上地区	126	22	17.5%	2.5%	2.0%	-0.5
北井上地区	68	9	13.2%	1.4%	0.8%	-0.6
計	5,000	1,086	21.7%	100.0%	100.0%	

注1：回数総数1,100票から地区不明14票を除いた1,086票を対象に集計。

注2：右段の「分布」の「実績」は徳島市の住民基本台帳人口に対する地区別人口の割合，「回収」は回収数1,086票に対する地区別回収数の割合。「差」は後者と前者との差。

イント大きい。このように、一部で回収率の違いによって、実際の分布との違いがわずかに生じたものの、総じて、サンプルは地区別の人口分布の実態を反映したものとなっている。

### Ⅲ. 集計結果

#### [1] 現在の阿波おどりとの関わり

表4は、徳島市民の現在（2022年）の阿波おどりとの関わりについてまとめたものである。

問1は、徳島市民の阿波おどりとの関わりの有無であり、「観覧だけ」が51.3%、「過去にあった」が23.0%、「まったくなし」が20.6%、「現在ある」が5.1%である。

問2は、問1で現在阿波おどりとの関わりがある（「現在ある」）と回答した50名の阿波おどりとの関わりの内容である。これは多重回答形式であり、50名の回答者が65の回答、つまり1回答者が平均1.3個（回答者割合130.0%）の回答を行っていることから、多くの場合、現在の関わりは複数あるというよりは一つであることが確認できる。回答者の56.0%が「連員」、ついで、26.0%が「職場の仕事」、14.0%が「地域・町内会の活動」、12.0%が「連や連員への協力」、4.0%が「（連員ではないが）おどりに参加」と「ボランティア（阿波おどりの運営のボランティアとしての関わり）」に回答している。

問3は、問1で現在阿波おどりとの関わりがある（「現在ある」）と回答した50名のうち、44名が回答した阿波おどりとの最も重要な関わりである。50.0%が「連員」、ついで、20.5%が「職場の仕事」、6.8%が「地域・町内会の活動」、4.5%が「連や連員への協力」である。

問4は、問1で現在阿波おどりとの関わりがある（「現在ある」）と回答した50名の、問3で回答した阿波おどりとの最も重要な関わりへの参加の程度である。コロナ禍前の2019年では「週に1回以上」が最頻値で36.0%、コロナ禍の2022年では「参加していない」が最頻値で40.0%である。

問5は、問1で現在阿波おどりとの関わりがある（「現在ある」）と回答した50名の最も重要な関わりをもったきっかけである。これは多重回答形式であり、50名の回答者が62の回答、つまり1回答者が平均1.2個（回答者割合124.0%）の回答を行っていることから、多くの場合、きっかけは複数あるというよりは一つであることが確認できる。回答者の32.0%が「連の知人に誘われたから」、ついで、28.0%が「自分で参加したいと思ったから」、26.0%が「勤務先の仕事だから」に回答している。

問6は、関わりをもった時期である。57.4%が「社会人になってから」で最頻値であり、ついで20.4%が「小学生かそれ以前から」に回答している。

問7は、問2で「連員」と回答した28名の連に所属した年数である。「20年以上」が最頻値で42.9%であり、ついで「10-20年未満」が32.1%である。

問8は、所属する連の人数であり、「50-100人未満」が最頻値で46.4%である。

問9は、コロナ禍で起きた連の活動の変化である。これは多重回答形式であり、28名の連員の回答者が58の回答、つまり1回答者が平均2.1個（回答者割合207.1%）の回答を行っている。回答者の89.3%が「練習に参加できる連員の減少」、ついで、71.4%が「おどりを披露する機会の減少」を挙げ、28.6%が「連を辞める人の増加」に回答している。

表4. 現在の阿波おどりと関わり

問1 阿波おどりと関わりの有無		回答数	割合
観覧だけ		501	51.3%
現在ある		50	5.1%
過去にあった		225	23.0%
まったくなし		201	20.6%
計		977	100.0%

  

問2 阿波おどりと関わりの内容		回答数	割合	回答者	割合
連員		28	43.1%	56.0%	
連や連員への協力		6	9.2%	12.0%	
おどりに参加		2	3.1%	4.0%	
地域・町内会の活動		7	10.8%	14.0%	
運営者		1	1.5%	2.0%	
ボランティア		2	3.1%	4.0%	
職場の仕事		13	20.0%	26.0%	
その他		6	9.2%	12.0%	
回答数計		65	100.0%	130.0%	
回答者計		50			

  

問3 最も重要な阿波おどりと関わり		回答数	割合
連員		22	50.0%
連や連員への協力		2	4.5%
おどりに参加		1	2.3%
地域・町内会の活動		3	6.8%
運営者		1	2.3%
ボランティア		1	2.3%
職場の仕事		9	20.5%
その他		5	11.4%
計		44	100.0%

  

問4 関わり の程度		2019年	2022年	2019年	2022年
		回答数	回答数	割合	割合
週に数回程度以上		18	13	36.0%	26.0%
週に1回程度		5	3	10.0%	6.0%
月に数回程度		4	5	8.0%	10.0%
数か月に数回程度		2	2	4.0%	4.0%
年に数回程度		4	4	8.0%	8.0%
当日のみ		6	3	12.0%	6.0%
参加していない		11	20	22.0%	40.0%
計		50	50	100.0%	100.0%

  

問5 現在の最も重要な関わりをもったきっかけ		回答数	割合	回答者	割合
連の知人から誘われたから		16	22.9%	32.0%	
町内会で頼まれたから		2	2.9%	4.0%	
友達に誘われたから		6	10.0%	12.0%	
家族に誘われたから		7	14.3%	14.0%	
学校の行事だから		0	0.0%	0.0%	
勤務先の仕事だから		13	15.7%	26.0%	
行政に誘われたから		0	0.0%	0.0%	
自分で参加したいと思ったから		14	21.4%	28.0%	
その他		4	12.9%	8.0%	
回答数計		62	100.0%	124.0%	
回答者計		50			

## 問6 関わりをもった時期

	回答数	割合
小学生かそれ以前から	11	20.4%
中学生の頃から	2	3.7%
高校生の頃から	5	9.3%
高校卒業後の学生の頃から	5	9.3%
社会人になってから	31	57.4%
計	54	100.0%

## 問7 連に所属した年数(連員)

	回答数	割合
1年未満	0	0.0%
1-3年未満	1	3.6%
3-5年未満	3	10.7%
5-10年未満	3	10.7%
10-20年未満	9	32.1%
20年以上	12	42.9%
計	28	100.0%

## 問8 所属する連の人数(連員)

	回答数	割合
50人未満	8	28.6%
50-100人未満	13	46.4%
100-150人未満	3	10.7%
150人以上	4	14.3%
計	28	100.0%

## 問9 コロナ禍で起きた連の活動の変化(連員)

	回答数		割合	
	回答数	割合	回答者	割合
特に変化はなかった	0	0.0%	0.0%	
連を辞める人の増加	8	13.8%	28.6%	
練習場所が確保できなかった	2	3.4%	7.1%	
練習に参加できる連員の減少	25	43.1%	89.3%	
おどりを披露する機会の減少	20	34.5%	71.4%	
その他	3	5.2%	10.7%	
回答数計	58	100.0%	207.1%	
回答者計	28			

## [2] 過去の阿波おどりとの関わり

表5は、徳島市民の過去における阿波おどりとの関わりについてまとめたものである。

問10は、過去の阿波おどりとの関わりである。問1で過去に阿波おどりとの関わりがあった(「過去にあった」)と回答した225名のうち、問10に回答した224名の過去の阿波おどりとの関わりの内容である。これは多重回答形式であり、224名の回答者が344の回答、つまり1回答者が平均1.5個(回答者割合153.6%)の回答を行っていることから、多くの場合、現在の関わりは複数あるというよりは一つか二つ程度であったことが確認できる。回答者の43.3%が「職場の仕事」、ついで、39.3%が「連員」、30.8%が「おどりに参加」に回答している。他方で、10.7%が「連や連員への協力」、9.8%が「地域・町内会の活動」、3.6%が「ボランティア(阿波おどりの運営のボランティアとしての関わり)」に回答しており、自発的な社会参加・活動を通じた関わりは過去においても低い。

問11は、回答者206名の過去の最も重要な関わりである。33.0%が「連員」、ついで、30.1%が「職場の仕事」である。

問12は、関わりを持たなくなった理由である。これは多重回答形式であり、217名の回答者が261

表5. 過去の阿波おどりととの関わり

## 問10 過去の阿波おどりととの関わり

	回答数	回答数	回答者
		割合	割合
連員	88	25.6%	39.3%
連や連員への協力	24	7.0%	10.7%
おどりに参加	69	20.1%	30.8%
地域・町内会の活動	22	6.4%	9.8%
運営者	6	1.7%	2.7%
ボランティア	8	2.3%	3.6%
職場の仕事	97	28.2%	43.3%
その他	30	8.7%	13.4%
回答数計	344	100.0%	153.6%
回答者計	224		

## 問11 過去の最も重要な関わり

	回答数	割合
連員	68	33.0%
連や連員への協力	13	6.3%
おどりに参加	30	14.6%
地域・町内会の活動	7	3.4%
運営者	3	1.5%
ボランティア	4	1.9%
職場の仕事	62	30.1%
その他	19	9.2%
計	206	100.0%

## 問12 関わりを持たなくなった理由

	回答数	回答数	回答者
		割合	割合
健康・年齢上の理由	47	18.0%	21.7%
生活・経済上の理由	24	9.2%	11.1%
仕事上の理由	75	28.7%	34.6%
コロナ禍の影響	29	11.1%	13.4%
興味がなくなった	35	13.4%	16.1%
その他	51	19.5%	23.5%
回答数計	261	100.0%	120.3%
回答者計	217		

## 問13 過去の最も重要な関わりをもったきっかけ

	回答数	回答数	回答者
		割合	割合
連の知人から誘われたから	35	12.7%	16.1%
町内会で頼まれたから	6	2.2%	2.8%
友達に誘われたから	44	15.9%	20.2%
家族に誘われたから	27	9.8%	12.4%
学校の行事だから	14	5.1%	6.4%
勤務先の仕事だから	77	27.9%	35.3%
行政に誘われたから	1	0.4%	0.5%
自分で参加したいと思ったから	56	20.3%	25.7%
その他	16	5.8%	7.3%
回答数計	276	100.0%	126.6%
回答者計	218		

## 問14 関わりをもった時期(過去)

	回答数	割合
小学生かそれ以前から	36	16.4%
中学生の頃から	15	6.8%
高校生の頃から	9	4.1%
高校卒業後の学生の頃から	27	12.3%
社会人になってから	131	59.8%
その他	1	0.5%
計	219	100.0%

の回答、つまり1回答者が平均1.2個(回答者割合120.3%)の回答を行っている。回答者の34.6%が「仕事上の理由」、ついで、23.5%が「その他」、21.7%が「健康・年齢上の理由」に回答している。また、「コロナ禍の影響」は、13.4%である。

問13は、過去の最も重要な関わりをもったきっかけである。これは多重回答形式であり、218名の回答者が276の回答、つまり1回答者が平均1.3個(回答者割合126.6%)の回答を行っている。回答者の35.3%が「勤務先の仕事だから」、ついで、25.7%が「自身で参加したいと思ったから」、20.2%が「友達に誘われたから」に回答している。

問14は、過去の最も重要な関わりをもった時期である。「社会人になってから」が59.8%であり、ついで16.4%が「小学生かそれ以前から」である。

### [3] 地域社会との関わりとソーシャル・キャピタル

表6は、徳島市民の地域社会との関わり、生活の質(Quality of Life: QOL)、ソーシャル・キャピタルについてまとめたものである。

問15は、居住する地域・町内への愛着である。最頻値は「愛着を感じている」で39.9%である。「少しは愛着を感じている」と合わせると、73.7%がポジティブな回答を行っている。

問16は、コロナ禍前の2019年とコロナ禍の2022年における生活全般と健康状態への満足度(QOL)である。(a)生活全般への満足度の最頻値はいずれの年も5であるが、4以下を選択した割合は、2019年は11.1%であるが、2022年は46.8%に増加している。他方、6以上の割合は、2019年は46.4%であるが、2022年は23.4%に減少している。(b)健康状態への満足度は、最頻値はいずれの年も5であるが、4以下を選択した割合は、2019年は11.7%であるが、2022年は29.8%に増加している。他方、6以上の割合は、2019年は44.8%であるが、2022年は33.5%に減少している。

問17は、コロナ禍前の2019年とコロナ禍の2022年における家族と買い物や外食をする頻度と友人と学校・職場以外で会う頻度である。(a)家族と買い物や外食をする頻度の最頻値は、2019年は「週に1回以上」であるが、2022年は「月に数回程度」である。「週に1回以上」と「月に数回程度」を合わせた選択割合は、2019年は75.2%であるが、2022年は62.3%に低下している。(b)友人と学校・職場以外で会う頻度の最頻値はいずれの年も「月に数回程度」であるが、「週に1回以上」と合わせた選択割合は、2019年は52.0%であるが、2022年は29.3%に低下している。

問18は、コロナ禍前の2019年とコロナ禍の2022年における近所の人との付き合いと学校や職場の人との付き合いである。(a)近所の人との付き合いは、最頻値はいずれの年も「あいさつ程度の付き合い」で61.5%と65.8%であるが、より緊密な付き合い(「家族と同じような付き合い」、「相談したり、生活面でも協力」、「日常的に立ち話をする」)は、2022年のコロナ禍では16.0%であり、2019年の24.0%から低下している。(b)学校や職場の人との付き合いも、最頻値はいずれの年も「日常的に立ち話をする」で46.1%と43.4%であるが、より緊密な付き合い(「家族と同じような付き合い」、「相談したり、生活面でも協力」)は、2022年のコロナ禍で21.4%であり、2019年の27.4%から低下している。

問19は、コロナ禍前の2019年とコロナ禍の2022年における同じ地域・町内の顔見知りの人、同じ地域・町内の他人で知らない人、地域外・町外の他人で知らない人への信頼度である。(a)同じ地域・町内の顔見知りの人への信頼度は、最頻値はいずれの年も「ある程度信頼できる」で57.8%と55.8%であり、コロナ禍前後で大きな変化は確認されない。(b)同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼度は、最頻値はいずれも「ほとんど信頼できない」で42.0%と42.0%であり、コロナ禍前後で変化は確認



表6. 地域社会との関わりとソーシャル・キャピタル

## 問15 居住する地域・町内への愛着

	回答数	割合
愛着を感じている	435	39.9%
少しは愛着を感じている	368	33.8%
どちらともいえない	163	15.0%
あまり愛着を感じていない	70	6.4%
愛着を感じていない	53	4.9%
計	1,089	100.0%

## 問16 (a) 生活全般への満足度

	2019年	2022年	2019年	2022年
	回答数	回答数	割合	割合
0	16	48	1.5%	4.5%
1	10	40	0.9%	3.8%
2	17	74	1.6%	7.0%
3	33	175	3.1%	16.5%
4	42	159	4.0%	15.0%
5	451	316	42.5%	29.8%
6	105	77	9.9%	7.3%
7	121	77	11.4%	7.3%
8	152	54	14.3%	5.1%
9	63	19	5.9%	1.8%
10	51	21	4.8%	2.0%
計	1,061	1060	100.0%	100.0%

## 問16 (b) 健康状態への満足度

	2019年	2022年	2019年	2022年
	回答数	回答数	割合	割合
0	13	33	1.2%	3.1%
1	6	19	0.6%	1.8%
2	9	35	0.8%	3.3%
3	39	103	3.7%	9.7%
4	57	127	5.4%	12.0%
5	462	389	43.5%	36.6%
6	85	93	8.0%	8.8%
7	101	78	9.5%	7.3%
8	145	82	13.7%	7.7%
9	73	53	6.9%	5.0%
10	71	50	6.7%	4.7%
計	1,061	1062	100.0%	100.0%

## 問17 (a) 家族と買い物や外食をする頻度

	2019年	2022年	2019年	2022年
	回答数	回答数	割合	割合
週に1回以上	428	278	39.5%	26.1%
月に数回程度	387	386	35.7%	36.2%
半年に数回程度	116	155	10.7%	14.6%
年に数回程度	67	108	6.2%	10.1%
数年に数回程度	29	31	2.7%	2.9%
全くない	57	107	5.3%	10.0%
計	1,084	1065	100.0%	100.0%

## 問17 (b) 友人と学校・職場以外で会う頻度

	2019年	2022年	2019年	2022年
	回答数	回答数	割合	割合
週に1回以上	167	86	15.6%	8.1%
月に数回程度	391	224	36.4%	21.2%
半年に数回程度	215	217	20.0%	20.5%
年に数回程度	119	206	11.1%	19.5%
数年に数回程度	55	86	5.1%	8.1%
全くない	126	240	11.7%	22.7%
計	1,073	1059	100.0%	100.0%

## 問18 (a) 近所の人との付き合い

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
家族と同じような付き合い	7	7	0.6%	0.6%
相談したり、生活面でも協力	38	29	3.5%	2.7%
日常的に立ち話をする	216	137	19.9%	12.6%
あいさつ程度の付き合い	669	713	61.5%	65.8%
まったく付き合い合っていない	158	198	14.5%	18.3%
計	1,088	1084	100.0%	100.0%

## 問18 (b) 学校や職場の人との付き合い

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
家族と同じような付き合い	24	21	2.4%	2.1%
相談したり、生活面でも協力	254	197	25.0%	19.4%
日常的に立ち話をする	468	442	46.1%	43.4%
あいさつ程度の付き合い	165	220	16.2%	21.6%
まったく付き合い合っていない	105	138	10.3%	13.6%
計	1,016	1018	100.0%	100.0%

## 問19 (a) 同じ地域・町内の顔見知りの人への信頼度

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
とても信頼できる	21	20	1.9%	1.9%
信頼できる	153	156	14.2%	14.5%
ある程度信頼できる	624	601	57.8%	55.8%
ほとんど信頼できない	179	187	16.6%	17.3%
まったく信頼できない	103	114	9.5%	10.6%
計	1,080	1078	100.0%	100.0%

## 問19 (b) 同じ地域・町内の他人で知らない人への信頼度

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
とても信頼できる	2	1	0.2%	0.1%
信頼できる	7	8	0.7%	0.7%
ある程度信頼できる	250	234	23.3%	21.8%
ほとんど信頼できない	451	451	42.0%	42.0%
まったく信頼できない	363	379	33.8%	35.3%
計	1,073	1073	100.0%	100.0%

## 問19 (c) 地域外・町外の他人で知らない人への信頼度

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
とても信頼できる	3	3	0.3%	0.3%
信頼できる	4	3	0.4%	0.3%
ある程度信頼できる	154	146	14.4%	13.6%
ほとんど信頼できない	400	387	37.3%	36.1%
まったく信頼できない	512	534	47.7%	49.8%
計	1,073	1073	100.0%	100.0%

## 問20 (a) 地域の活動への参加度

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
週に1回以上	5	3	0.5%	0.3%
月に数回程度	31	24	2.9%	2.2%
半年に数回程度	72	36	6.7%	3.3%
年に数回程度	164	104	15.2%	9.7%
数年に数回程度	102	81	9.5%	7.5%
まったく参加していない	343	418	31.8%	38.8%
活動が身近にない	362	411	33.5%	38.2%
計	1,079	1077	100.0%	100.0%

## 問20 (b) ボランティア活動や市民活動への参加度

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
週に1回以上	11	8	1.0%	0.7%
月に数回程度	39	27	3.6%	2.5%
半年に数回程度	32	27	3.0%	2.5%
年に数回程度	72	36	6.7%	3.3%
数年に数回程度	65	44	6.0%	4.1%
まったく参加していない	488	526	45.3%	48.7%
活動が身近にない	371	411	34.4%	38.1%
計	1,078	1,079	100.0%	100.0%

## 問20 (c) スポーツや趣味等の活動への参加度

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
週に1回以上	141	115	13.1%	10.6%
月に数回程度	171	123	15.8%	11.4%
半年に数回程度	45	54	4.2%	5.0%
年に数回程度	71	61	6.6%	5.6%
数年に数回程度	59	41	5.5%	3.8%
まったく参加していない	351	423	32.5%	39.2%
活動が身近にない	242	263	22.4%	24.4%
計	1,080	1,080	100.0%	100.0%

されない。(c) 地域外・町外の他人で知らない人への信頼度は、最頻値はいずれも「まったく信頼できない」で47.7%と49.8%であり、コロナ禍前後で大きな変化は確認されない。

問20は、コロナ禍前の2019年とコロナ禍の2022年における阿波おどり以外の、地域の活動、ボランティア活動や市民活動、スポーツや趣味等の活動への参加度である。(a) 地域の活動への参加度は、2019年の最頻値は「活動が身近にない」、2022年の最頻値は「まったく参加していない」である。「まったく参加していない」と「活動が身近にない」を合わせた割合は2019年が65.3%で、もともと市民の地域の活動への参加度は高いとは言えなかったが、2022年のコロナ禍では77.0%になってさらに低調となった。(b) ボランティア活動や市民活動への参加度は、最頻値はいずれの年も「まったく参加していない」である。「まったく参加していない」と「活動が身近にない」を合わせた割合は2019年が79.7%で、もともと市民のボランティア活動への参加度は高いとは言えなかったが、2022年のコロナ禍では86.8%になってさらに低調となった。(c) スポーツや趣味等の活動への参加度の最頻値は、いずれの年も「まったく参加していない」である。「まったく参加していない」と「活動が身近にない」を合わせた割合は2019年が54.9%で、もともと市民のスポーツや趣味等の活動への参加度は高いとは言えなかったが、2022年のコロナ禍では63.5%になってさらに低調となった。他方で、「週1回以上」と「月に数回程度」を合わせた積極的な参加者は2019年では28.9%、2022年は22.0%であり、ボランティア活動や市民活動といった社会参加・活動と異なり、スポーツや趣味等の活動への参加度は二極化している。

## [4] 回答者属性

表7は、本調査の回答者の属性についてまとめたものである。

問21は、性別であり、男性39.7%、女性60.0%、その他0.4%である。

問22は、徳島市での居住年数である。5年未満が少なく全体の7.5%であり、他方30年以上は

55.8%である。

問23は、居住地区であり、「八万地区」が最頻値である。

問24は、学歴であり、「高等学校卒」が最頻値であり、ついで「大学卒」の割合が高い。

問25は、ニュースを読んだり、見たりする媒体である。これは多重回答形式であり、1,097名の回答者が2,729の回答、つまり1回答者が平均2.5個（回答者割合248.8%）の回答を行っている。回答者の80.1%が「テレビ」、ついで、75.4%が「スマートフォン」を挙げ、49.8%が「新聞」に回答している。

問26は、新聞購読の有無であり、「定期購読」と「読みたいときに購入」を合わせると、61.9%となり、市民の60%強が日常的に新聞を読んでいる。

問27は、読んでいる新聞である。これは多重回答形式であり、1,071名の回答者が1,151の回答、つまり1回答者が平均1.1個（回答者割合107.5%）の回答を行っている。回答者の61.7%が「地方紙」であり、「全国紙」や「経済紙」はそれぞれ8.8%と4.1%である。

問28は、コロナ禍前の2019年とコロナ禍の2022年における世帯（生計を共にしている）人数であり、いずれの年も「2人」が最頻値である。ついで、「1人」と「3人」の割合が高い。

問29は、2019年と2022年における世帯構成であり、いずれの年でも「親と末子18歳未満」が最頻値であり、ついで「夫婦のみ」、「単身」及び「親と末子18歳以上」が多い。

問30は、2019年と2022年における年齢区分である。いずれの年でも「40歳代」が最頻値であり、30歳代以下は30%前後である。

問31は、2019年と2022年における主な職業である。いずれの年でも「正社員」が40%弱で最頻値である。ついで、「非正規雇用者」が多い。

問32は、2019年と2022年における婚姻状況である。いずれの年でも「既婚」が60%弱で最頻値であり、「未婚」が30%程度である。

問33は、2019年と2022年における住まいの状況である。いずれの年でも「持家・戸建て」が60%弱で最頻値であり、ついで「借家・集合住宅」が27%弱である。

問34は、2019年と2022年における世帯年収である。2019年の最頻値は「300-400万円未満」(16.2%)であるが、2022年の最頻値は「200-300万円未満」(15.5%)となり、コロナ禍で低下したものの、年収分布に大きな変化は確認されない。

表7. 回答者属性

問21 性別

	回答数	割合
男性	435	39.7%
女性	658	60.0%
その他	4	0.4%
計	1,097	100.0%

問22 徳島市での居住年数

	回答数	割合
3年未満	51	4.7%
3-5年未満	31	2.8%
5-10年未満	76	7.0%
10-20年未満	160	14.6%
20-30年未満	165	15.1%
30年以上	610	55.8%
計	1,093	100.0%

## 問23 徳島市内の居住地区

	回答数	割合
内町地区	23	2.1%
新町地区	4	0.4%
西富田地区	8	0.7%
東富田地区	17	1.6%
昭和地区	55	5.1%
渭東地区	71	6.5%
渭北地区	77	7.1%
佐古地区	50	4.6%
沖洲地区	66	6.1%
津田地区	58	5.3%
加茂名地区	104	9.6%
加茂地区	94	8.7%
八万地区	121	11.1%
勝占地区	74	6.8%
多家良地区	26	2.4%
不動地区	9	0.8%
入田地区	8	0.7%
上八万地区	33	3.0%
川内地区	68	6.3%
応神地区	19	1.7%
国府地区	70	6.4%
南井上地区	22	2.0%
北井上地区	9	0.8%
計	1,086	100.0%

## 問24 学歴

	回答数	割合
中学校卒	54	5.0%
高等学校卒	387	35.5%
専修・短大卒	238	21.8%
大学卒	336	30.8%
大学院卒	57	5.2%
その他	18	1.7%
計	1,090	100.0%

## 問25 ニュースを読んだり、見たりする媒体

	回答数		回答者	
	回答数	割合	回答数	割合
テレビ	879	32.2%	80.1%	
新聞	546	20.0%	49.8%	
ラジオ	163	6.0%	14.9%	
パソコンのインターネット	308	11.3%	28.1%	
スマートフォン	827	30.3%	75.4%	
その他	6	0.2%	0.5%	
回答数計	2,729	100.0%	248.8%	
回答者計	1,097			

## 問26 新聞購読の有無

	回答数	割合
定期購読	645	59.0%
読みたいときに購入	32	2.9%
購読していない	416	38.1%
計	1,093	100.0%

## 問27 読んでいる新聞

	回答数		回答者	
	回答数	割合	回答数	割合
地方紙	661	57.4%	61.7%	
全国紙	94	8.2%	8.8%	
経済紙	44	3.8%	4.1%	
その他	19	1.7%	1.8%	
新聞は読んでいない	333	28.9%	31.1%	
回答数計	1,151	100.0%	107.5%	
回答者計	1,071			

## 問28 世帯(生計を共にしている)人数

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
1人	196	245	18.1%	22.5%
2	333	334	30.7%	30.7%
3	247	223	22.8%	20.5%
4	207	188	19.1%	17.3%
5	76	74	7.0%	6.8%
6	20	20	1.8%	1.8%
7	3	2	0.3%	0.2%
8	2	2	0.2%	0.2%
11人	1	1	0.1%	0.1%
計	1,085	1,089	100.0%	100.0%

## 問29 世帯構成

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
単身	196	238	18.2%	22.4%
夫婦のみ	249	238	23.2%	22.4%
親と末子18歳未満	298	299	27.7%	28.2%
親と末子18歳以上	252	210	23.4%	19.8%
三世帯世帯	63	56	5.9%	5.3%
その他	17	20	1.6%	1.9%
計	1,075	1,061	100.0%	100.0%

## 問30 年齢区分

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
10歳代	50	29	4.7%	2.7%
20歳代	124	96	11.6%	9.1%
30歳代	185	176	17.3%	16.6%
40歳代	238	233	22.3%	22.0%
50歳代	188	195	17.6%	18.4%
60歳代	194	196	18.2%	18.5%
70歳代	88	133	8.2%	12.6%
計	1,067	1,058	100.0%	100.0%

## 問31 主な職業

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
会社役員	54	51	5.0%	4.7%
正社員	433	425	39.9%	39.3%
自営業者	87	91	8.0%	8.4%
非正規雇用者	224	211	20.7%	19.5%
失業	17	26	1.6%	2.4%
無職	87	111	8.0%	10.3%
専業主婦・主夫	101	111	9.3%	10.3%
学生	75	53	6.9%	4.9%
その他	6	3	0.6%	0.3%
計	1,084	1,082	100.0%	100.0%

## 問32 婚姻状況

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
既婚	620	617	57.0%	56.8%
離・死別	129	157	11.9%	14.4%
未婚	338	313	31.1%	28.8%
計	1,087	1,087	100.0%	100.0%

## 問33 住まいの状況

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
持家・戸建て	651	641	59.7%	59.4%
持家・集合住宅	92	93	8.4%	8.6%
借家・戸建て	47	45	4.3%	4.2%
借家・集合住宅	290	290	26.6%	26.9%
その他	11	11	1.0%	1.0%
計	1,091	1,080	100.0%	100.0%

## 問34 世帯年収

	2019年 回答数	2022年 回答数	2019年 割合	2022年 割合
100万円未満	76	94	7.3%	9.1%
100-200万円未満	105	113	10.1%	10.9%
200-300万円未満	138	161	13.2%	15.5%
300-400万円未満	169	142	16.2%	13.7%
400-500万円未満	127	129	12.2%	12.4%
500-600万円未満	101	86	9.7%	8.3%
600-700万円未満	75	74	7.2%	7.1%
700-800万円未満	54	50	5.2%	4.8%
800-900万円未満	58	59	5.6%	5.7%
900-1000万円未満	38	44	3.6%	4.2%
1000-1200万円未満	53	41	5.1%	3.9%
1200-1500万円未満	29	24	2.8%	2.3%
1500-2000万円未満	12	12	1.1%	1.2%
2000万円以上	9	9	0.9%	0.9%
計	1,044	1,038	100.0%	100.0%

## IV. おわりに

最後に、本調査の主な結果について、①サンプル、②市民の阿波おどりと関わり、③阿波おどりと関わりの現在と過去の実態、④ソーシャル・キャピタルの観点から整理すると以下の通りである。

## ①サンプル

本調査のサンプルは、徳島市の地区別、年齢階級別の人口分布を反映したものである。ただ、性別では回答者が女性に偏った。

## ②市民の阿波おどりと関わり

2022年において、阿波おどりと（観覧以外の）関わりを持つ市民は5%程度であった。コロナ禍の影響で関わりを持たなくなった市民も一定割合で確認されたが、踊り手や連への協力、地域や町内会を通じた活動、阿波おどりの運営のサポート等ボランティアで実際に関わりを持っている市民は多くない。他方で、過去に関わりを持っていた市民は23%いることから、これらを合わせると市民の30%弱が実際に（観覧以外の）関わりを持った経験がある。また、過去も含め、さらに観覧という広い意味で阿波おどりと関係性を捉えれば、実に市民の80%がなんらかの形で阿波おどりと関わりを持った経験があることが明らかになった。一方で、過去から現在まで何の関わりも持っていない市民はおおよそ20%にすぎなかった。

### ③阿波おどりとの現在と過去の関わり

阿波おどりとの関わりは、現在も過去も、「連員」や「仕事」を通じた関わりが中心である。市民の阿波おどりとの関わりは、「地域や町内会の活動」や「ボランティア活動」といった自発的な社会参加・活動とは多くの場合切り離されており、現在も過去も社会参加・活動を通じて阿波おどりとの関わりを持つ市民は少ない。他方で、「仕事」を通じた関わりが高いことから、企業のビジネス活動や商店等の家業、企業連や阿波おどり開催のスポンサーといった「経済的活動」では関わりがあり、地元の産業界が徳島市の阿波おどりを支えている側面が確認された。

また、現在も過去も、市民が阿波おどりとの複数の関わり（たとえば、町内会の活動と連や連員への協力の両立等）を持つというよりは、多くの場合、いずれか一つの関わりを持っている。

### ④ソーシャル・キャピタル

まず、地域への愛着は居住者の居住地域とのつながりや居住継続意志を示すものであり、70%超の市民が居住地域に愛着を持っている。つぎに、QOLはコロナ禍で悪化し、特に生活満足度は大きく悪化した。

ソーシャル・キャピタルについては、家族とのつながりは顕著に密であるが、近所の人との付き合いは必ずしも密接とはいえない。学校や職場の人については、出かける頻度や付き合いの程度は密接であることが確認できるが、コロナ禍において出かける頻度は大きく低下している。このように、付き合い・交流を示すソーシャル・キャピタルのコロナ禍での低下が顕著である。地域内の知人を信頼（特定信頼）するポジティブな割合は高いが、地域内外の知らない人への信頼（一般信頼）は極めて低いことが確認された。ただし、特定信頼と一般信頼のいずれもコロナ禍における信頼の低下は確認されなかった。地域活動やボランティア活動・市民活動といった社会参加の程度は高くないが、コロナ禍においてさらに低下している。



## V. 付録：調査票

徳島市民の皆様へ

令和4年12月

## 阿波おどりと地域社会との関わりについての アンケート協力のお願い

日頃より、徳島市政の推進にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

この度、徳島市と日本大学経済学部は共同で、市民の皆様の阿波おどりと関わりが、人と人とのつながりや日常生活などに与える影響を調査することを通じて、徳島の伝統文化である阿波おどりの意義を学術的に明らかにすることを目的に、アンケート調査を実施することといたしました。

本調査は、15歳以上の市民5,000人の方を無作為に抽出し、ご協力をお願いしております。調査の結果については、今後の阿波おどりや本市観光に関する施策、広報に活用するとともに、2023年刊行の日本大学等で発行される学術雑誌を通じて公表する予定としています。ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理し、回答内容から個人が特定されたり、他の目的に利用することは一切ありません。

なお、本調査は、日本大学経済学部産業経営研究所の助成（令和4年度研究プロジェクト）を受けて実施しています。

お忙しいところ、お手数をおかけしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

### ご記入に際してのご説明

1. 本調査は、封筒の「宛て名に記載された方」ご本人様がお答えください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号を○印で囲んでください。
3. 特に注釈がない質問については、あてはまる選択肢一つだけを選んでください。
4. いくつかの設問は、現在(2022年)と新型コロナウイルスの感染拡大前(2019年)の状況で分けてお答えください。
5. 回答の中で、「その他」を選んだ場合は、( )内などに具体的な内容をご記入ください。
6. ご記入いただいた調査票は、**12月22日(木)まで**に同封の返信用封筒でご返送ください。  
なお、返信用封筒の切手は不要です。

## ◆現在の「阿波おどり」との関わりについてお聞きします。

(問1) あなたは現在、阿波おどりとの関わり(踊り手、観覧、ボランティア、仕事等)がありますか。あてはまるものに○をつけてください。※阿波おどりの「観覧」とは、阿波おどりの会場(前夜祭、選抜阿波おどり、有料演舞場、無料演舞場等)において観覧することをいいます。(テレビ等での視聴は除く)

1. 阿波おどりとの関わりは「観覧だけ」である	→3ページの間 15へお進みください
2. 「観覧以外の関わり」が <u>現在ある</u>	→問2へお進みください
3. 「観覧以外の関わり」が過去にあったが、 <u>現在は無い</u>	→2ページの間 10へお進みください
4. 阿波おどりの観覧を含めてこれまで全く関わりがない	→3ページの間 15へお進みください

(問2) 現在、あなたは阿波おどりどのような関わりがありますか。

※あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 連員	2. 連や連員への協力	3. 連員ではないが、おどりに参加
4. 地域や町内会の活動を通じた関わり		5. 阿波おどりの運営者としての関わり
6. 阿波おどりの運営のボランティアとしての関わり		7. 職場の仕事の一環としての関わり
8. その他(具体的に		)

(問3) 問2の1～8の選択肢の中から、あなた自身が選んだ阿波おどりとの関わりの中で、あなたにとって最も重要な関わりを一つ選んで、番号を以下の( )内に記入してください。

あなた自身が選んだ現在の「関わり」の中で、最も重要な関わり ( )

(問4) 8月の阿波おどり本番までに、問3で選んだ最も重要な関わりにどの程度参加しましたか。  
※新型コロナウイルスの感染拡大前(2019年)と現在(2022年)で分けてお答えください。

	感染拡大前(2019年)							現在(2022年)						
	週に数回程度以上	週に1回程度	月に数回程度	数か月に数回程度	年に数回程度	当日のみ参加	参加していない	週に数回程度以上	週に1回程度	月に数回程度	数か月に数回程度	年に数回程度	当日のみ参加	参加していない
記入例	1	2	③	4	5	6	7	1	②	3	4	5	6	7
① 最も重要な関わりの頻度	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

(問5) 阿波おどりとの「最も重要な関わり」を持った「きっかけ」を次の中から選んでください。

※あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 連の知人から誘われたから	2. 町内会で頼まれたから	3. 友達に誘われたから
4. 家族に誘われたから	5. 学校の行事だから	6. 勤務先の仕事だから
7. 行政の担当者に誘われたから	8. 自分自身で参加したいと思ったから	
9. その他(具体的に	)	

(問 6) いつから、阿波おどりと「最も重要な関わり」を持ちましたか。

1. 小学生かそれ以前から	2. 中学生の頃から	3. 高校生の頃から
4. 高校卒業後の学生の頃から	5. 社会人になってから	
6. その他（具体的に _____）		

### ◆阿波おどりの連員（有名連、企業連・一般連等）の方にお聞きします。

→現在、連員でない方は、3ページの問 15 へお進みください。

(問 7) 連に所属して何年になりますか。

1. 1 年未満	2. 1 年～3 年未満	3. 3 年～5 年未満
4. 5 年～10 年未満	5. 10 年～20 年未満	6. 20 年以上

(問 8) 所属されている連の連員数はどの程度ですか。

1. 50 人未満	2. 50～100 人未満	3. 100～150 人未満	4. 150 人以上
-----------	---------------	----------------	------------

(問 9) コロナ禍で連の活動にどのような変化が起きましたか。その他には、選択肢以外の変化や好ましい変化があれば、具体的に記入してください。※あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 特に変化はなかった	2. 連を辞める人が増えた	3. 練習場所が確保できなかった
4. 家庭や仕事の事情で練習に参加できる連員が減少した	5. おどりを披露する機会が減少した	
6. その他（ _____ ）		

### ◆阿波おどりととの関わりを持たなくなった方にお聞きします。

→現在、阿波おどりととの関わりがある方は、3ページの問 15 へお進みください。

(問 10) あなたは過去に、阿波おどりとどのような関わりがありましたか。

※あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 連員	2. 連や連員への協力	3. 連員ではないが、おどりに参加
4. 地域活動や町内会を通じた関わり	5. 阿波おどりの運営者としての関わり	
6. 阿波おどりの運営のボランティアとしての関わり	7. 職場の仕事の一環としての関わり	
8. その他(具体的に _____)		

(問 11) 問 10 の 1～8 の選択肢の中から、あなた自身が選んだ過去の阿波おどりととの関わりの中で、あなたにとって最も重要な関わりを一つ選んで、番号を以下の( )内に記入してください。

あなた自身が選んだ過去の「関わり」の中で、最も重要な関わり ( )
-----------------------------------

(問 12) あなたが、阿波おどりととの関わりを持たなくなった(関わらないようになった)理由は何ですか。

※あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 健康や年齢上の理由	2. 生活・経済上の理由	3. 仕事上の理由
4. コロナ禍の影響	5. 興味がなくなった	
6. その他(具体的に _____)		

(問 13) 問 11 で選んだ阿波おどりと「最も重要な関わり」を持った「きっかけ」を次の中から選んでください。 ※あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 連の知人から誘われたから	2. 町内会で頼まれたから	3. 友達に誘われたから
4. 家族に誘われたから	5. 学校の行事だから	6. 勤務先の仕事だから
7. 行政の担当者に誘われたから	8. 自分自身で参加したいと思ったから	
9. その他 (具体的に )		

(問 14) いつから、阿波おどりと「最も重要な関わり」を持ちましたか。

1. 小学生かそれ以前から	2. 中学生の頃から	3. 高校生の頃から
4. 高校卒業後の学生の頃から	5. 社会人になってから	
6. その他 (具体的に )		

◆あなたと地域社会との関わりについてお聞きします。

(問 15) あなたは現在、居住する地域・町内に愛着を感じていますか。

1. 愛着を感じている	2. 少しは愛着を感じている	3. どちらともいえない
4. あまり愛着を感じていない	5. 愛着を感じていない	

問 16～問 20 は新型コロナウイルスの感染拡大前(2019 年)と現在(2022 年)で分けてお答えください。

(問 16) あなた自身の生活全般や健康状態について、最も不満な状態を「0 点」、最も満足な状態を「10 点」とした場合、あなたが感じる満足度に最もあてはまる数値に○をつけてください。

	感染拡大前(2019 年)										現在(2022 年)											
	最も不満	←				普通				→	最も満足	最も不満	←				普通				→	最も満足
記入例	0	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10
① 生活全般	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
② 健康状態	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

(問 17) あなたは日頃、家族や友人と一緒にどの程度出かけたり、会ったりしていますか。

	感染拡大前(2019 年)						現在(2022 年)					
	週に1回以上	月に1回 数回程度	半年に1回 数回程度	年に1回 数回程度	数年に1回 数回程度	全くない	週に1回以上	月に1回 数回程度	半年に1回 数回程度	年に1回 数回程度	数年に1回 数回程度	全くない
① 家族と買い物や外食をする頻度	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
② 友人と学校・職場以外で会う頻度	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

(問 18) あなたは、次の①～②の人々とのような付き合いをしていますか。

	感染拡大前(2019年)					現在(2022年)				
	家族と同じような付き合い	互いに相談したり、生活面でも協力する	日常的に立ち話をする	あいさつ程度の付き合い	全く付き合いっていない	家族と同じような付き合い	互いに相談したり、生活面でも協力する	日常的に立ち話をする	あいさつ程度の付き合い	全く付き合いっていない
① 近所の人	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
② 学校や職場の人	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

(問 19) あなたは、次の①～③の人々を信頼できますか。

	感染拡大前(2019年)					現在(2022年)				
	とても信頼できる	信頼できる	ある程度信頼できる	ほとんど信頼できない	全く信頼できない	とても信頼できる	信頼できる	ある程度信頼できる	ほとんど信頼できない	全く信頼できない
① 同じ地域・町内の顔見知りの人	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
② 同じ地域・町内の他人で知らない人	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③ 地域外・町外の他人で知らない人	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

(問 20) あなたは、阿波おどり以外の活動で、次の①～③の活動にどの程度参加していますか。

※地域等の行事、ボランティア、趣味等で阿波おどりに関するものや連の活動以外でお答えください。

	感染拡大前(2019年)							現在(2022年)						
	週に1回以上	月に1回、数回程度	半年に1回、数回程度	年に1回、数回程度	数年に1回、数回程度	全く参加していない	活動が身近にない	週に1回以上	月に1回、数回程度	半年に1回、数回程度	年に1回、数回程度	数年に1回、数回程度	全く参加していない	活動が身近にない
① 地域の活動(町内会等の行事等)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
② ボランティア活動や市民活動	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
③ スポーツや趣味、学習等の活動	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

### ◆最後に、あなたのことについてお聞きします。

この質問は統計的に処理するために使用するもので、個人を特定するものではありません。

(問 21) あなたの性別についてお答えください。

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

(問 22) あなたの徳島市での居住歴についてお答えください。

1. 3年未満	2. 3年～5年未満	3. 5年～10年未満
4. 10年～20年未満	5. 20年～30年未満	6. 30年以上

(問 23) 現在のお住いの地区に○をつけてください。

1. 内町	2. 新町	3. 西富田	4. 東富田	5. 昭和	6. 渭東
7. 渭北	8. 佐古	9. 沖洲	10. 津田	11. 加茂名	12. 加茂
13. 八万	14. 勝占	15. 多家良	16. 不動	17. 入田	18. 上八万
19. 川内	20. 応神	21. 国府	22. 南井上	23. 北井上	

※地区が不明な場合には右の欄に

「町名」を記入してください。

町名

(問 24) あなたの学歴についてお答えください。

1. 中学校卒	2. 高等学校卒	3. 専修学校・短大卒
4. 四年制大学卒	5. 大学院卒	

(問 25) あなたは普段、どの媒体でニュースを読んだり、見たりしていますか。

※あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. テレビ	2. 新聞	3. ラジオ
4. パソコンのインターネット(SNSを含む)	5. スマートフォン等のインターネット(SNSを含む)	
6. その他(具体的に )		

(問 26) あなたのご家庭では新聞を購読していますか。

1. 定期購読している	2. 読みたいときに購入する	3. 購読していない
-------------	----------------	------------

(問 27) あなたのよく読んでいる新聞は何ですか。※あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 地方紙	2. 全国紙	3. 経済紙(日本経済新聞等)
4. その他の新聞( )		5. 新聞は読んでいない

問 28～問 34 は新型コロナウイルスの感染拡大前(2019年)と現在(2022年)で分けてお答えください。

(問 28) あなたの世帯人数(生計を共にしている人数)を以下の空欄に記入してください。

感染拡大前(2019年)		現在(2022年)	
あなたを含めて	人	あなたを含めて	人

## (問 29) あなたの世帯の構成についてお答えください。

感染拡大前(2019年)	現在(2022年)
1. 単身(あなた1人)	1. 単身(あなた1人)
2. 夫婦のみ	2. 夫婦のみ
3. 親と末子が18歳未満の子どもの二世帯世帯	3. 親と末子が18歳未満の子どもの二世帯世帯
4. 親と末子が18歳以上の子どもの二世帯世帯	4. 親と末子が18歳以上の子どもの二世帯世帯
5. 三世帯世帯	5. 三世帯世帯
6. その他(具体的に )	6. その他(具体的に )

## (問 30) あなたの年齢についてお答えください。

感染拡大前(2019年)	現在(2022年)
1. 10歳代	1. 10歳代
2. 20歳代	2. 20歳代
3. 30歳代	3. 30歳代
4. 40歳代	4. 40歳代
5. 50歳代	5. 50歳代
6. 60歳代	6. 60歳代
7. 70歳代	7. 70歳代

## (問 31) あなたの主な職業についてお答えください。

感染拡大前(2019年)	現在(2022年)
1. 会社などの役員	1. 会社などの役員
2. 正社員・正規の公務員・教員	2. 正社員・正規の公務員・教員
3. 自営業者(手伝いを含む)	3. 自営業者(手伝いを含む)
4. 非正規雇用(パート・アルバイト、契約・派遣社員)	4. 非正規雇用(パート・アルバイト、契約・派遣社員)
5. 仕事をしていないが、求職中	5. 仕事をしていないが、求職中
6. 仕事をしておらず探していない(退職など)	6. 仕事をしておらず探していない(退職など)
7. 専業主婦・主夫	7. 専業主婦・主夫
8. 学生	8. 学生
9. その他(具体的に )	9. その他(具体的に )

## (問 32) あなたの婚姻状況についてお答えください。

感染拡大前(2019年)	現在(2022年)
1. 既婚	1. 既婚
2. 配偶者と離別・死別	2. 配偶者と離別・死別
3. 未婚	3. 未婚

## (問 33) あなたの住まいについてお答えください。

感染拡大前(2019年)	現在(2022年)
1. 持家 一戸建て	1. 持家 一戸建て
2. 持家 集合住宅(マンション・アパート等)	2. 持家 集合住宅(マンション・アパート等)
3. 借家 一戸建て	3. 借家 一戸建て
4. 借家 集合住宅(マンション・アパート等)	4. 借家 集合住宅(マンション・アパート等)
5. その他(具体的に )	5. その他(具体的に )

(問 34) あなたの世帯の年収(生計を共にしている家族全体、税込み)についてお答えください。

感染拡大前(2019年)の世帯年収	現在(2022年)の世帯年収(見込)
1. 100万円未満	1. 100万円未満
2. 100～200万円未満	2. 100～200万円未満
3. 200～300万円未満	3. 200～300万円未満
4. 300～400万円未満	4. 300～400万円未満
5. 400～500万円未満	5. 400～500万円未満
6. 500～600万円未満	6. 500～600万円未満
7. 600～700万円未満	7. 600～700万円未満
8. 700～800万円未満	8. 700～800万円未満
9. 800～900万円未満	9. 800～900万円未満
10. 900～1000万円未満	10. 900～1000万円未満
11. 1000～1200万円未満	11. 1000～1200万円未満
12. 1200～1500万円未満	12. 1200～1500万円未満
13. 1500～2000万円未満	13. 1500～2000万円未満
14. 2000万円以上	14. 2000万円以上

(問 35) 阿波おどりや地域社会について、あなたのご意見をご自由にお書きください。


質問項目は以上です。長時間ご協力いただき、誠にありがとうございました。  
ご記入いただいたアンケート用紙は、12月22日までに同封の返信用封筒(切手不要)でご返送ください。